



# NO. **モユク・カムイ100**

●モユク・カムイとはアイヌ語で「エゾタヌキ」のことです。 April 2019

## ASAHIYAMA ZOO NEWS

あさひやまどうぶつえんニュース



### もくじ

寄稿 <b>モユク・カムイ100号にあたって</b> ……	1.2
ぼくは動物大使 その61	
<b>アイヌ語ではモユク・カムイ～エゾタヌキ～</b> ……	3.4
表紙で振り返るモユクカムイ 1～100号までの道のり ……	5.6
<b>モユク・カムイの今・昔</b> ……	7～10
2019みどころマップ ……	11.12
モユクカムイ100号によせて ……	13
主なできごと・飼育動物数 ……	14
編集後記 ……	15

### エゾタヌキ

*Nyctereutes  
procyonoides albus*



小菅 正夫

# モユク・カムイ100号にあたって

今号が、モユクカムイ第100号となり、足かけ38年もの間、よくぞ続けてくれたと思う。長かったなあ。後輩諸君には、心から感謝したい。

思えば、私が入園したのは開園6年目の1973年だった。その一年前に入ったのが阿部寛で、同い年であった。どちらからともなく、機関誌を作ろうと言い出し、その2年後の1981年には第1号を発行した。その頃、旭山動物園では多くの傷病鳥獣を受け入れていて、北海道産動物の飼育下繁殖に力を入れていた。それは私が在園していた間に受賞した繁殖賞(日本の動物園で初めての繁殖成功)20個体の内北海道産が17個体と圧倒的に多いことでもお分かりいただけると思う。

機関誌の名称をどうするか? 当時、他園では「なきごえ(大阪)」、「すづくり(広島)」、「はばたき(神戸)」というユニークな名もあったが、阿部さんが「モユク・カムイが良いんじゃないか。アイヌ語でエゾタヌキのことだ」と言ってきた。タヌキなら昔から誰にでも親しみがあるし、アイヌの人々は野生動物との共生を実践してきているので、それにしよう。ということで名前が決まり、第一号の表紙はエゾタヌキとなった。

第1号から第5号までの特集を見て欲しい。動物学入門となっている。機関誌の発行と言うことで、二人の肩に力が入りすぎているのが分かる。読んでくれる人のことを考えていない。改めて読んで赤面の至り。この頃は、ワープロなどなく、字の下手くそな私が書いた文字が他人に読めるはずもなく困っていたら、管理係長がワープロを持っていて、快く貸してくれた。これがなかったら、真っ先に私が挫折していたと思う。

挫折と言えば、5号と6号の間に4年間も空白がある。なぜ、この間休刊してしまったのか。実は、当時本庁には文書係という部署があり、私が原稿を書き、阿部さんがイラストを描いて編集して文書係で印刷して貰っていた。ところが、文書係長から、「動物園の資料をここで印刷しているようだが、そもそもここは一般会計の予算で動いている。紙だってお金が掛かっているんだ。動物園は特別会計なので、そちらの予算でやりなさい」と言われた。私は、「同じ市役所なのに、なぜですか。市の仕事を効率よく運ぶ為に、一括してここで印刷しているのでしょうか」と怒りを抑えて反論した。すると

「いや、印刷はしてあげるが、90kgの用紙は厚すぎて普通は使わないし、高いんだ。そっちで買ってくれ」と押し返され、阿部さんと2人で悔し涙を流した。膨らんだ胸が冷や水を掛けられて、急に萎んでしまったのだ。

私が係長になった時、やっぱりモユクカムイは再発行しなければならないと思った。我々の考え方や思いを直接伝えるに、機関誌が必要なのだ。阿部さんも同じ意見だった。紙さえあれば良いんだ。土木部の庶務に行って「機関誌を出したいので、紙を買ってくれませんか」とお願いした。係長は、にこりとして「いいよ。90kgだね」とその場で発注してくれた。PTAに呼ばれて講話をした時、「お礼をさせて欲しい」と言われ、素直に「では、紙を買ってください」とお願いした。そうして用意した紙が飼育事務室に積み重ねられ、6号の発刊となったのだ。表紙は初心に戻ってエゾタヌキとし、内容は北海道の動物を特集した。こうして再刊されたモユクカムイは、年4回のペースで発刊を続けた。しかも1991年の第24号からは、動物園の予算で印刷会社に発注できることとなり、カラー刷りの立派なものになった。内容も読みやすくなり、愛読者もできた。

そして、あの事件が起こった。1994年7月19日ゴリラのゴンタが発作を起こして死亡した。当初は脳血管障害との診断であったが、精密な病理検査の結果翌1995年8月、死因がエキノコックス症であったことが判明した。我々は直ちに記者会見を開き、死に至った経緯と動物園のエキノコックス対策まで丁寧に説明したが、マスコミには十分に伝わらず、誤解を生むような報道に旭山動物園が埋まってしまった。そこで直後の第38号では、エキノコックス症の特集を組み、最初で最後の大増刷をしてエキノコックス症に対する理解を深めようとした。

翌1995年の第40号から、私が発行人となり阿部さんが編集長となったが、その阿部さんが1996年3月の第43号を以て退職し、絵本作家あべ弘士となって独立した。その直後、二人を育ててくれたアジアゾウのアサコが4月21日に老衰で息を引き取った。飼育に携わった全員がアサコへの感謝を綴り、阿部さんにイラストと編集をお願いして第44号は、アサコの追悼冊子となった。

あれから23年間、55冊を書き継いで、ついに今号が記念すべき100号となった。

この冊子の発行を続けてくれた皆さん。そして愛読して下さった皆さまのお陰です。心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

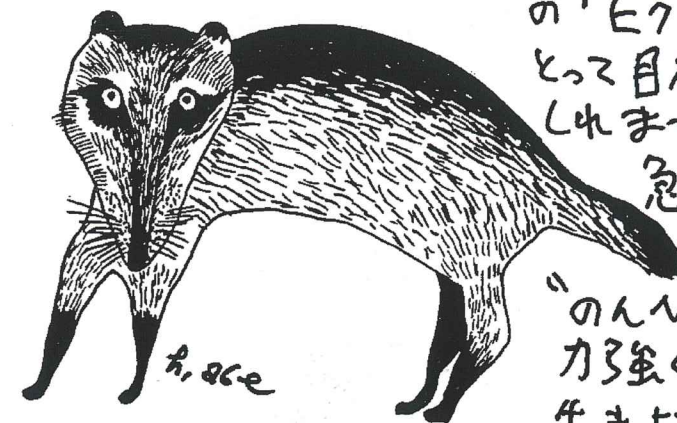


あべ 弘士



## <モユク・カムイ 事始め>

「モユク・カムイ」がはじまったのはもうずいぶん昔の昔のこととあまりおぼえていませんが、動物園にとって機関紙の発行の重要性については、強く意識していました。当時、全国の動物園・水族館で機関紙を出している園館は数少ないとおもいます。自分たちが何を考え、どんな仕事をしているのかを市民、入園者、学校、全国の他園へ発信したかったのですが、紙すら買ってもらえません。私と小菅が中心となり、まず紙を手に入れた。記事とイラストを書き、本庁で和文タイフと印刷機でつくりました。予算ほとんどゼロでした。機関紙の名前は、そのころすばらしい機関紙は、東京の「動物と動物」犬山モンキーセンターの「モンキー」、もうひとつ登別くま牧場の「ヒグマ」で私たちに



とって目標だったのかもしれない。でも急にりははになるはずもありません。

「のんびりと、ゆったり、力が強く、ぼつと生きて抜いている」  
エゾタヌキにしよう。

ということで小菅と考えました。

よくぞ100号までできました。でもまだまだまだ化け系続けましょう。

あべ弘士

# エゾタヌキ

学名 *Nyctereutes procyonoides albus*  
 分類 ネコ(食肉)目 イヌ科

東アジアに分布するタヌキの亜種で北海道の一部に生息する。本州・四国・九州に生息するホンダタヌキとの外見上の違いはほとんどない。

寿命は、約6~10年。

森林や川・沼沢で生活し、日中は巣穴で休息し夜間に行動するため、あまり見かけることはない。巣穴を自ら掘ることは少なく、木の穴や岩の割れ目などの自然にできた穴やキツネの古巣を利用する。

基本的に一夫一妻で、繁殖期以外は複数で行動することもある。

外来種のアライグマとの競合や生息環境の悪化で生息数の減少が心配されている。

## 旭山のエゾタヌキたち



# ぼくは動物大使

その61

# アイヌ語ではモユク・カムイ ~エゾタヌキ~

### 毛色

体毛は茶褐色で、目の周り・耳のふちは黒い。

### 耳

やや丸く、ふちが黒い。聴覚は鋭い。

### 目

視力はあまり良くないが、夜行性のため暗いところでも見える。

### 鼻

嗅覚は鋭い。食べ物の臭いでエサを探し出す。

### 繁殖

春から夏にかけてが繁殖期。3~8頭の子供を産み、巣穴で子育てをする。

### ■ タヌキとアライグマのちがいをくらべてみよう ■



## ためファン

タヌキはファンを特定の場所に何度もする『ためファン』という習性があり、そのファンがたまった場所を『ためファン場』といいます。

『ためファン場』は他の個体と共同で使い、行動範囲を他個体に示す役割やファンの内容物から食べ物の情報を得るなど、タヌキたちの情報交換やコミュニケーションの場と考えられています。

### 体

頭胴長 50~60cm  
 体重 4kg~8kg

### 食べ物

カエル・ミミズ・昆虫・ザリガニ・動物の死体、果実、木の実なども食べる雑食性。狩りは得意ではない。

### 尾

短く、先端が黒い。

### 脚

肉球がある。短くて手先は不器用、木登りはできるが降りるのは得意ではない。



ためファン場の大きさは、ファンが数個の時もあれば直径1m・高さ10cmになることもあり、さまざまです。

旭山動物園のタヌキたちにも『ためファン場』があります、どこにあるのか探してみてください。

## エゾタヌキの分布



## 冬ごもり

エゾタヌキは冬になるとエサが少なくなるためエネルギーを節約した生活をします。これを『冬ごもり』といいます(ホンダタヌキは、冬ごもりをしません)。

冬ごもりの間は巣穴の中で過ごす時間が長くなるため、秋にエサを沢山食べて蓄えた皮下脂肪を消費しながら暮らします。

天気が良い日や暖かい日は巣穴から出てひなたぼっこをしたり、木の芽を食べたり巣穴の周りを歩き回ったりすることもあります。

北海道の厳しい寒さに耐えるため、毛は冬になるとふさふさの冬毛に生え替わります。そのため夏と冬の間見た目はガラッと変わります。



夏



冬



表紙で振り返る

モユク・カムイ

1~100号

までの道のり



# モユク☆カムイの今昔

モユク☆カムイの今と昔を比べ、今の企画につながる企画や昔行っていた企画を編集委員が勝手に抜粋をしました。どのように今のモユク☆カムイになっていったのか、色々思い出話を加えながら紹介いたします。

## 表紙の移り変わり

1号～23号 (B5版・白黒印刷)

絵で勝負をしていた時代(かなり苦労をした)

24号～39号 (B5版・2色刷り)

写真を使えるようになった

40号～44号 (A4版・2色刷り)

45号～現在 (A4版・表紙カラー)

あべ弘士さんが退職され、45号から編集は中田に引き継がれる



## 動物大使の移り変わり

現在モユク☆カムイは必ず動物の詳しい解説をする「動物大使」があります。これは、昔の企画から今に至っています。その移り変わりを紹介します。

動物学入門 (1号～4号)

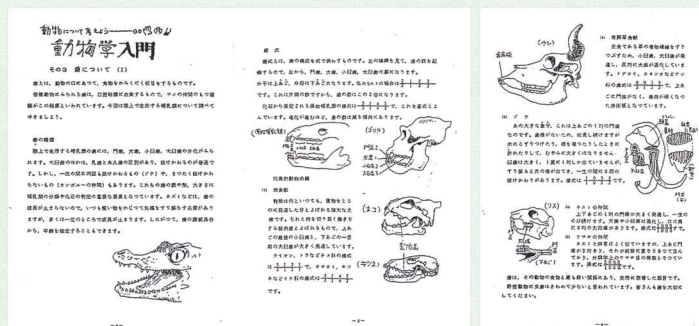
3ページを使い、動物の細かいところまで解説していました。当時は写真が使えなかったため、絵で説明をし、色々な動物の体の「形と働き」について解説をしていました。

- 1号は「それぞれの動物の手足」
- 2号は「角について」
- 3・4号は「歯について」

特集シリーズ (12号～23号)

この時代から現在と同じ2ページで解説していました。4回で1サイクル(1年間で4回発行している)で動物の仲間が変わっていました。

- 肉食 (ネコ、イヌ、クマ、アライグマ・イタチ)の仲間
  - 草食 (ゾウ、キリン、ウマ、リス・ウサギ)の仲間
  - トリ (ワシ・タカ、フクロウ、ツル、ガン・カモ)の仲間
- それぞれ分けて、動物の解説をしていました。



3号「歯について～その1～」



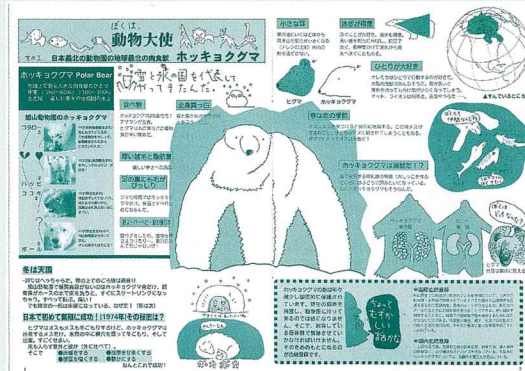
14号「特集クマ(熊)」

動物ってなんだろう (24号～39号)

特集シリーズを引き継いで、新しいコーナーになりました。

- サル仲間
- リス・ネズミ・ウサギの仲間
- キジの仲間
- フクロウ、ワシ、タカの仲間
- ガン、カモの仲間
- は虫類の仲間 など

※38号ではエキノコックスについて解説しています。



40号「ホッキョクグマ」



24号「第4回サル」

ぼくは動物大使 (40号～)

現在の形になります。1つの動物(種)に着目して解説する形になりました。44号のゾウが、あべ弘士さんの最後の絵となりました。現在は、編集委員が毎回大使に登場する動物の絵を描き、編集委員でコンテストを開き、選ばれた絵がモユク☆カムイに掲載されています。

## 飼育研究レポート

飼育研究レポートは、8号から始まりました。担当者がその動物の飼育の出来事について紹介をしています。特に、繁殖や飼育について研究していることを紹介しています。昔から比べると、飼育技術が向上しているのがわかります。飼育環境なども変化してきており、過去のモユク☆カムイを見比べると、動物の飼育の変遷がわかるかも。動物なので、いくら研究しても、ネタはつきません。今後楽しみに！



8号「ホッキョクグマの繁殖」

33号「新人飼育員」

99号「シマフクロウの繁殖」

## 獣医から (Vet.メモ・News)

獣医のコラムである、Vet.メモなどは、2号から始まりました。旭山動物園は、獣医も担当動物をもつことから、獣医的な視点を交えた動物園動物の話、動物病院で起きた出来事や、治療、飼育技術の話となっています。最近では、動物園全体の話も含むようになりました。

みなさん、最近ハエを見ましたか? 家の中に1匹でもいたら、いらして殺さずにはいられないという1動物園ハエの苦闘です。動物園にいて、ハエはたくさん種類があることに気が付きます。春まで驚かされてきたハエが、雪が降り始める秋おそくまで、一緒につきまわっています。ハエを見ている私たちでも、うっとうしいくらいです。あたたかいからなのですが、多いときは数十匹背中につくっています。自分では気づいていない事に気が付かないのですが、他の背についているのを見ると、僕にもついているのかもしれない、思わず痒痒いアルムとふるふるしてしまいます。背につかない背中ばかりついているのは、ハエも春と、と一見目がくらむを得ません。

ハエの幼虫ウジを見た事がありますか? 動物園では、ケガをした動物の体中にウジが湧きます。もちろんウジごときはすぐに退治できるのですが、ある時、背中が腫れ上がり、アヒルの体無数の寄生虫がついて、こんな虫見た事ないし、どうしたらいいだろうと聞かれた事がありました。鼻に行ってみるとウジです。

ハエは私たちが生活している街中ではあまり見なくなりましたが、私たちが生活している街中、ハエは絶対どこかにいます。ハエは不衛生イメージですが、私たちが処理できない生みかみなどを食べて生きています。それでもハエを殺さないとしたら、きっとハエよりさらにヒトが絶滅するでしょう。



## こども牧場からのお手紙

こども牧場は平成8年にオープンしましたが、その2年後から始まったコラムです。現在も不定期ですが、続いています。

こども牧場の動物たちやエピソード、その時の出来事や取り組みなどを紹介しています。

59号「こども牧場」について



98号「こども牧場の新たな取り組み」について

## 昔あった企画・特集やコラム

昔のモユク☆カムイにあって、編集委員が勝手に選んだコラムや企画・特集を紹介いたします。現在のモユク☆カムイでも復活することがあるかもしれない企画など満載です！

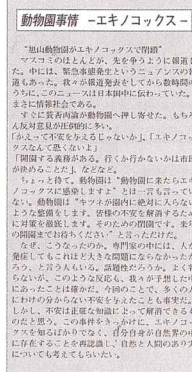
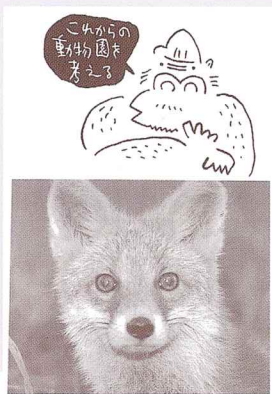


## 動物園事情

当時園長であった、小菅さんが、毎回コラムを書いていた。旭山動物園のことだけでなく、動物園全体の課題や将来について考えるコーナーでした。

動物園の役割を中心に、血統管理・種の保存、ブリーディングローンなど、現在の動物園に関わってくる内容です。

この時代から、旭山は色々な形で発信をしていたことがわかります。



## 動物園事情

### 動物園の役割 その1

「動物園は何のためにあるか」という問いをよく受ける。いわゆる存在理由だ。動物園を訪れる多くの人は「動物園って楽しいよね」という感想を持っている。理想などない、それ良いのだと思う。ただ、決して楽しくないことを強制されるほど苦しいことはない。動物園が楽しいところであることを肯定する動物園は多い。と信じている。

動物園の役割とは、一般的にいわれることだが、レクリエーション、教育、研究、動物保護の4つである。レクリエーションが真っ先に来ているが、この機能ばかりを強調され、「遊びのための動物園か」と批判されることがある。それに対し、動物園は「い、研究や野生動物の保護もしている」と反論する。

さて、動物園の役割をどう捉えるか、それはどうあるべきか、動物園を飼育して「見る」。この目的のため、保護のために動物を飼育している場所を誰も動物園とは言わない。それは動物園を何のために見るのかであるが、歴史的には王侯貴族の楽しみであったものが、市民に開放された動物園でまったく別世界の珍しい動物を見て楽しむようになった。この頃は人が楽しむことが目的であった。そして「こんな変わった動物がいる」というのが動物園の自慢であった。従って動物たちの姿が動物園で動物たちは飼育されていた。人々は「動物たちが物陰に隠れ見えぬ」と苦情を言い、園長は動物園の姿が動物園に見えぬか」と注意することになる。旭山動物園は昨年30周年を迎えたが、開園時に建設された動物舎がまだ残っている。この動物舎が動物園の姿を見せるための施設として「珍しい動物をよく見せるため」に動物を飼育していたことを証明している。

この頃の動物園は動物たちの隠れ家を見せられた人々は、ライオンやワニを珍しい動物という認識で見て、ほとんど本物の動物を見て「動物のすべて」を分かったような錯覚に陥ってしまった。その人ではない。動物園には、まだ多くの人々が来ていた。しかしその目的は、いろいろな広がりがある。その背景にあるのは「動物園が楽しい」からだと思う。なぜなら、その前には実際に触れ合えなかったからだ。動物園を訪れる意義を訴えることほど困難なことはない。来園してくれた多くの人に、なにを見たいかを見てもらうのが、今動物園に聞かれているのだと思う。

51号「動物園の役割〜その1〜」

38号「エキノコックス」について

## ゲンちゃんの追求コーナー

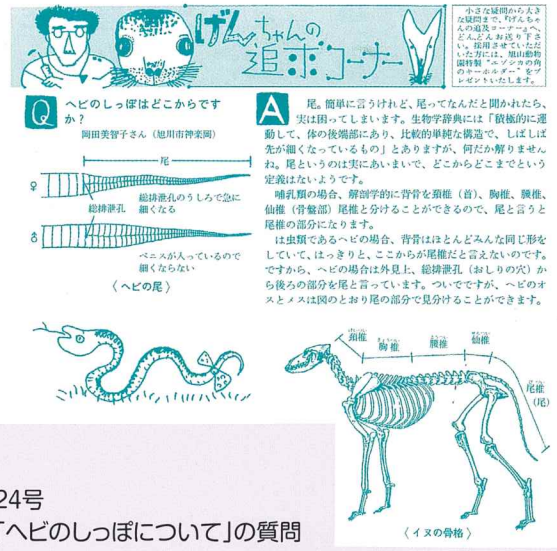
質問を募集して、その質問に答えていく唯一のコーナーでした。色々な質問があったと聞いています。

例えば…

- 「ヘビのしっぽはどこから?」
- 「どうしてイヌはしゃべらないの?」
- 「どうしてウチの形はいろいろなの?」

といった質問がありました。

採用された方には、旭山特製の「エゾシカ角キーホルダー」がプレゼントされていました。



24号「ヘビのしっぽについて」の質問

## どうぶつ解析学

動物にまつわる話をコラムにしていました。それぞれに「なるほど〜」となる動物の話が掲載されています。



24号「花札」

31号「百人一首」

39号「ことわざ」

## 昆虫についてのコーナー

子どもたちの夏休みに向けて、昆虫についてのコーナーがありました。鳴く虫や昆虫標本の作り方、カブトムシやホタルについて、様々な内容でした。今後、復活もあいな!



17号「夏休み特集 鳴く虫」

まだまだ、他にもたくさんの企画がありました。興味ある方は、旭山動物園の公式ホームページに、1号〜99号までダウンロードできるようになっていますので、ぜひご覧ください。

みなさんの好きな企画を選んでみてはいかがでしょうか?

## 真一の目

今は副園長である中田が、新人だった時代に書いていたコラムです。なぜ、このコラムが始まったかという…あべさんから「中田何か書いてみなさい」といった一言かららしいです。

全3回で終わってしまったこの企画ですが、モユク☆カムイをあべさんから引き継ぎ、全体の統括をすることで、惜しくもなくなってしまったようです…。



新米キーパーの苦悩

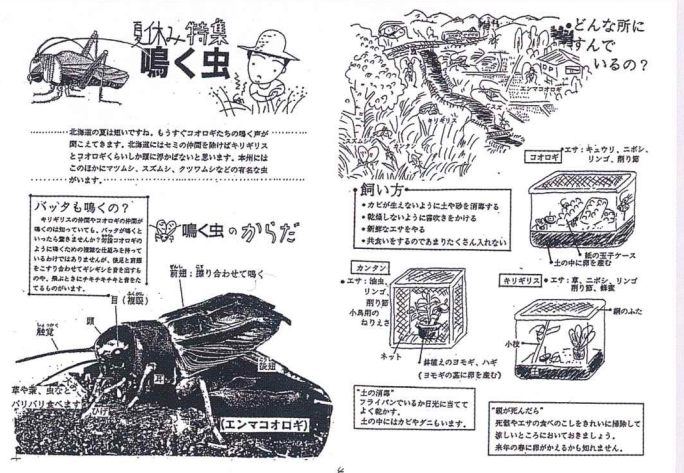
真一の目

3回とは…



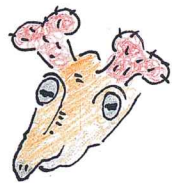
(左)41号「人間は…人?家?ご飯?」

(右)42号「動物脱走 夢物語」



17号「夏休み特集 鳴く虫」

# みどころマップ



⑰ トナカイ舎  
ツノの成長に注目!

⑮ チンパンジーの森  
旭山の長老「キーボ」に  
会いに来てね。



⑯ さる山  
待ちに待った混合展示!  
認めあえるかな?



⑱ おらんうーたん舎  
彼らのふるさとのこと、  
みんなで考えよう。



⑲ てながざる館  
3才の「うた」今日も  
唄ってます。キョン  
がいるのを見逃さ  
ないでね。



⑭ 北海道産動物舎  
(フクロウ類・野鳥・ユキウサギ・エゾリス・  
タヌキ・キツネ・クマタカ・オジロフシ・オオ  
ワシ・カラス・アライグマ・テン・ミンク)  
ユキウサギ〜いつ頃茶色になるのかなあ〜。



⑪ シマフクロウ舎  
いちばん  
大きいフクロウ。  
主食は魚です。



⑬ 両生類・は虫類舎  
身近にいるけど見たこと  
ある?



⑫ タンチョウ舎  
ツルの一声。  
大きな声!



⑩ エゾシカの森  
メスばかり? いいえ、  
オスの角は春にとれちゃ  
うんだよ。

⑨ オオカミの森  
オオカミ一家の遠吠えは  
迫力満点!



⑦ 小獣舎  
(ホッキョクギツネ・レッ  
サーパンダ・マヌルネコ・  
ヤマアラシ) 2年目をむか  
えたマヌルネコの「グ  
ルーシャ」照れ屋さん?!

⑥ もうじゅう館  
(ライオン・トラ・ヒョウ・  
ヒグマ)ライオンの  
「オリト」たてがみは  
まだちょぼちょぼ。



⑧ シロフクロウ舎  
ペアの相性は  
どうかな?



④ あざらし館  
よく見て、みんな  
模様がちがうよ。



③ ペンギン館  
昨年生まれのキングの  
ヒナももう一人前です。



⑤ ほっきょくぐま館  
また暑い夏がくるぜ。  
そんなときはプール  
にドボン!



② とどりの村  
カラフルな巣箱が  
いっぱい。  
どこに入るかな?



① フラミンゴ舎  
新しくなったよ! 泥場が  
できた。卵うむかな?



⑳ かば館  
(カバ・ダチョウ・イボイノシシ)  
カーモンペイビーアフリカ!



㉘ きりん舎  
「永友」初めての春!



東門

西門

正門

㉙ サル舎  
(ワオキツネザル・アビシニア  
コロブス・ブラッサゲノン)  
ワオがいっぱい。何頭いる?



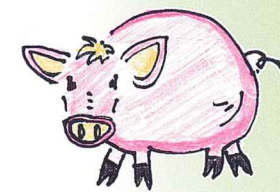
㉚ くもざる・かびばら館  
カピさん、君を見てると  
幸せを感じます。



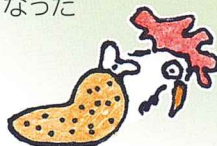
㉛ 旧総合動物舎  
(タヌキ)  
中国の方に人気!  
なぜ?



㉜ ゆっくりロード  
なんだ? テンだ!



㉝ こども牧場  
ブタ、でっかくなっ  
たなあ!



㉞ にわとり・あひる舎  
新築です! 命、伝えます!



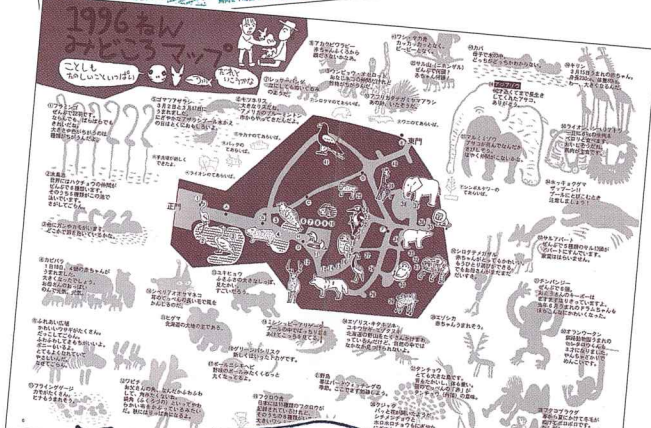
㉟ くじゃく舎  
「おれ、きれいだろ?」

- A サポートセンター
- B 動物図書館・資料展示館
- C 野外ステージ
- D イベントホール

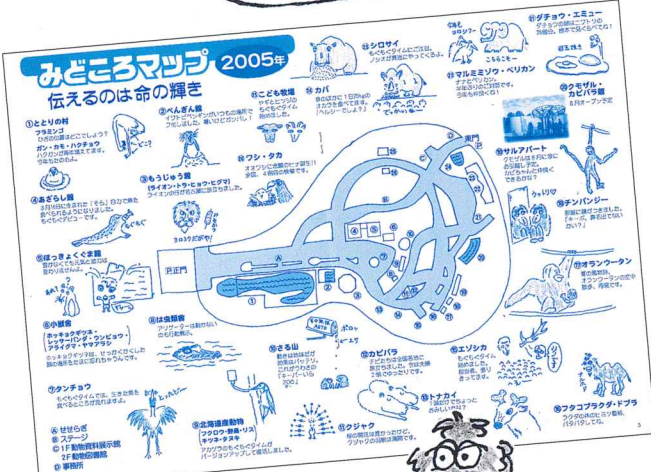
長老「キーボ」と振り返る  
過去のマップ



ゴリラいたなあ...



もうじゅうかんも  
あざらしかんも  
まだないねえ



たいてい今に  
近づいてきたぞ!!

モクカムイ100号によせて

# ～旭山動物園とモクカムイ～



モクカムイいよいよ記念すべき100号の発刊を迎えました。僕が旭山動物園に就職した昭和61年、ワンポイントガイド元年でこの職場の熱気やこだわりに驚きと言うか唾然としながら言われるがままにコマとして働きました。もう一つがモクカムイでした。第5号を出してからしばらく休刊状態で、新人も入ったことだししっかりと機関誌としてやっていこうと言うことで、やはり右も左も分からないまま切り貼り程度のお手伝いから参加することになりました。編集に関わらせてもらえるまで2年かかりました。「動物たちと来園者の心を繋ぐこと」にかける常識外れの熱意をワンポイントガイドとモクカムイから感じ、しっかりと根の張った思いを学び、押しつけるのではなく共感を得ることが大切であることを教えられました。

ちなみにモクカムイはエゾタヌキのことですが僕にも深い思い出があります。勤め始めた年から傷病保護動物の担当となり保護された子ダヌキ、あるいは動物園で繁殖して育児放棄されたまだ目も開かない子ダヌキの人工保育を行うこととなりました。当時は牛乳や時に医材費のやり繰りで高価な犬用のミルクを購入し24時間フルサポートでミルクを与えました。ところが目が開いて歩けるようになった頃、皮膚がフケのような<sup>かひ</sup>痂皮に覆われ、肉球の皮膚が剥がれ、ミルクは飲むのに痩せて死んでしまうのです。ビタミン類の欠乏や感染症を疑い試行錯誤を繰り返しましたが結果は変わりません。そして3年目、ついに亜鉛の欠乏症であることを突き止めました。身近な動物のことを僕らは知らないのだと、思い知らされました。

日本最北の動物園として誕生した旭山動物園の象徴はアムールトラ、ホッキョクグマ、トナカイ…それなのに機関誌はエゾタヌキ!これはスゲーことです!

エキノコックス症発生での閉園、あべ弘士氏の退職、モクカムイは大きな柱のひとつを失いました。その後奇跡の動物園と呼ばれるようになる激変の時代…。途中発刊が不定期になる時期もありましたが歴代編集委員が「志」を引き継ぎ発刊を続けてきました。

菅野ひろし氏を始め歴代園長のもと全職員で培ってきた旭山イズムは引き継がれています。その象徴がモクカムイなのだと思えます。「思いを伝える」原点が凝縮されています。

旭山動物園 園長 坂東 元

## 🐾 主なできごと 📌

### 2018年

- 9月 4日 フンボルトペンギン「No10」死亡(胃潰瘍)
- 26日 おびひろ動物園よりエゾリス2頭来園
- 29日 自然観察会「みんな助けて!旭山動物園VS 特定外来植物」
- 10月 8日 アミメキリンがオスの子を出産(父親:ゲンキ、母親:結)



生まれた目の永友(エイト)と結

- 14日 自然観察会「動物園でネイチャーゲーム!」
- 20日 自然観察会「色づく秋を探しに行こう!」
- 22日 トナカイの「リン(メス)」が釧路市動物園へ移動
- 11月 3日 夏期開園最終日・わくわくゲーム大会
- 10日 北海道産動物舎にてホンドテンの展示を開始
- 11日 冬期開園日
- 小樽水族館よりジェンツーペンギン2羽が来園
- 14日 シンリンオオカミの「ノンノ(メス)」が富山市ファミリーパークへ移動
- 25日 クリスマスツリーを飾る会(いこいの広場)
- 12月20日 クモザルの「ジュン(メス)」死亡(肝臓捻転)
- 23日 アミメキリンの命名式「永友(えいと)」と命名

### 2019年

- 1月20日 雪の中の動物撮影教室開催
- 22日 カバの旭子がオスの子を出産するが、当日に死亡
- 26日 ジェンツーペンギンの「No9」死亡(内臓痛風)

### 2月6日~11日 雪あかりの動物園(冬期夜間開園)

- 9日 自然観察会「スノーシューをはいて雪山探検」
- 10日 ユキヒョウの「ヤマト」と「ジーマ」のペアリング開始
- 第24回旭山動物園動物ふれあいフォトコンテスト表彰式
- 25日 エゾシカの「ミズナラ(オス)」死亡(闘争による創傷感染と敗血症)
- ヒツジの「かれん(メス)」死亡(老衰・多臓器不全)
- 3月 6日 オランウータンの「リアン(メス)」が死亡(くも膜下出血)



在りし目のリアン・モモ・モルト

- 10日 自然観察会「エゾシカが増えてどうなった!? 現役ハンターと歩く自然探検」
- 19日 アムールトラの「ソーン(オス)」とアビシニアコロプスの「ルビ(オス)」が浜松市動物園へ移動
- 21日 「天売猫のおはなし会と譲渡会」
- 4月 7日 冬期開園最終日

最新情報はここでチェック!!



公式HP Facebook Twitter Instagram

## モク・カムイ No.100 2019年4月27日

- 発行/旭川市旭山動物園 〒078-8205 旭川市東旭川町倉沼
- 発行人/坂東 元 ●表紙絵/あべ 弘士
- 編集/丸 一喜・高橋 伸広・大内 章広・鈴木 悠太・中村 亮平  
佐賀 真一・中田 真一
- 印刷/株式会社須田製版: 〒070-8045 旭川市忠和5条8丁目3-1

## 飼育動物数 2019年3月31日現在

- 哺乳類 45種 309点
- 鳥類 52種 308点
- は虫類 4種 16点
- 合計 101種 633点



## 編集後記

1981年の初刊から38年、ついに「100号」の発刊です。メモリアルな一冊にしたかったので、増ページ・オールカラーの豪華版です。また創刊の中心であった前園長小菅正夫氏、絵本作家のあべひろし氏に一筆いただきたいと依頼したところ、二つ返事で快く承諾してくださいました。「モユクカムイ」への熱い想いを感じるとともに、今号がより華やかになったと確信しています。そんなお二人に敬意を表し、裏表紙は第1号の表紙絵の構図で「エゾタヌキ」を描きました。



あべさんから引き継いだ当初、内容を考えるのも絵を描くのも大変でした。今と一番違うところは写真です。フィルムしかなかった頃、撮っては現像、プレテで撮りなおし、また現像に出す。今は「デジカメ」があり、その場で確認でき何度でも撮りなおせる。便利な時代になりました。正直この編集作業が重荷となり、発行を滞らせてしまった事もありました。そんな時助けてくれたのは飼育の仲間たちでした。みんなでたどり着いた100号です。

ネット社会の現代ですが手元に残る良さを追求し、これからも動物の魅力を発信し続けたいと思います。動物たち、そして読者の皆様に感謝を込めて、この「100号」をお届けします。今後も「モユクカムイ」をご愛読いただきますよう、よろしく申し上げます。  
(副園長 中田真一)